



東村山エネルギー 共同代表
東京都東村山市 吉森 弘子 さん



東村山エネルギー立ち上げ総会

Q 差し支えなければ、年齢と出身地を教えてください。

A 59歳。岡山県岡山市の出身です。

Q ごみ問題に関心をもつようになったのは何故ですか？

A 私は2006年6月から2013年6月まで、生協パルシステム東京の理事長を務めました。

生協の組合員活動に関わるきっかけになったのは、パルシステムの前身生協のひとつジョイコープで、チラシといっしょに入ってきた環境委員会ニュース「ごまめ新聞」でした。この「ごまめ新聞」で連載していた「日の出処分場は今」などの記事を読んでから、ごみ問題にも関心を抱くようになりました。

その後、1998年に、ジョイコープ環境委員会や多摩東部地域環境委員会の皆さんも関わって「ごみ・環境ビジョン21」が設立されると知り、敬愛する皆さんが生協の枠を超えて広く社会に発信されていく姿が頼もしく、私も関わり続けたいと思い、ごみかんに入会しました。

Q ごみ問題に関ること以外に、趣味や生きがいは何ですか？

A 健康維持のために、時々走っています。最近では、青梅マラソン10km、そうじゃ吉備路マラソン10kmなど。

また、月に一回は、山友と高尾山周辺に出没します。文楽や絵画を見るのも好きです。

Q 特筆すべき近況があれば、教えてください。

A 2016年9月に、地域の仲間と市民団体「東村山エネルギー」を設立しました。目的は、「市民の力で地域にエネルギーの地産地消を広げること」です。

最初のプロジェクトでは、市内のデイサービスに太陽熱温水器を導入する支援を行ない、通常のお風呂での活用に加えて、緊急時のお湯・水の備蓄、入浴の提供も可能となりました。また、イベントでは子どもたちに自転車発電でプラレールを動かしてもらい好評でした。

活動を通して、持続可能なエネルギー社会の実現と緊急時にも安心できるまちづくりをめざしています。市民発電所の設置・運営にも取り組みたいねと話し合っています。助言や情報提供よろしく願いいたします。

また、毎週金曜夕方には、地元の西武新宿線久米川駅前「希望のエリア東村山」と称する脱原発スピー

ル行動（通称キンクメ）を続けています。2013年夏の福島訪問をきっかけに始まり、すでに220回を超えました。全国の金曜行動に連帯して、身近な地域から声を上げ続けることが、国をも動かす力につながっていくことを願っています。楽しく明るく、誰でも無理なく参加できる雰囲気を大切にしています。地域での出会いや交流の場ともなっており、その意味でも大切にしていきたい活動です。機会がありましたら、お立ち寄りください。



ビデオメッセージも添えた以下の関連リンクもぜひご覧ください。

ウェブマガジン《マガジン9》

「希望のエリアのあきらめない人々」第8回【もうひとつの希望のエリア】

*「マガジン9」で検索。

右下の「コンテンツ」にあります。